市会議案第３号

ＵＲ賃貸住宅ストックの活用を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成３１年３月２５日提出

吹田市議会議員　　澤田　雅之

同　　里野　善徳

同　　藤木　栄亮

同　　吉瀬　武司

同　　小北　一美

ＵＲ賃貸住宅ストックの活用を求める意見書（案）

全国にある独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）の賃貸住宅の多くは老朽化してきており、居住者の高齢化も進んでいる。このため、高齢者向け優良賃貸住宅の家賃減額の継続や修繕など、居住者の負担軽減に向けた対策などが求められてきた。

国の平成３１年度（２０１９年度）予算案には、現に居住している高齢者に対する２０年間の家賃減額期間の退去時までへの延長や、バリアフリー改修に係る補助率の引上げなどの経費が計上されている。

さらに、平成３１年度（２０１９度）からは、ＵＲ賃貸住宅ストック活用・再生ビジョンの実現に向けた取組が始まる予定である。

よって、本市議会は政府及び国会に対し、ＵＲ賃貸住宅団地において、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まいやまちになるよう、下記の事項に取り組むことを求める。

記

１　平成４５年度（２０３３年度）までに、２５０団地程度の地域医療福祉拠点の整備を着実に進めること。

２　団地機能の多様化に伴い、高齢者・子育て支援施設の整備を進めること。

３　健康寿命サポート住宅の供給を拡充すること。

４　ＵＲ賃貸住宅ストックの活用に当たっては、地方公共団体や地域関係者との連携を図るとともに、住民の意見を丁寧に聞き取り、居住の安定確保を図ること。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出する。

平成３１年３月　　日

吹　田　市　議　会